

県きこL研ニュース

岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究会事務局（盛岡市立桜城小学校内）

〒020-0022 盛岡市大通 3-8-1

電話／FAX 019-624-0457 e-mail:jimukyoku@iwate-nangen.jp http://www.iwate.nangen.jp

第64回 岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会 開催報告

令和6年1月9日（火）に、いわて県民情報交流センター（アイーナ）で第64回岩手県きこえ・ことば・LD等教育研究大会が開催されました。

来賓、個人会員や一般参加者を含め、219名の参加となりました。

開会行事では、本研究会にご尽力いただいた先生方3名の表彰が行われました。

今回は、午前日本吃音臨床研究会会長の伊藤伸二氏を講師とした講演会、午後全体会で2地区2研究班の発表があり、その後各分科会に分かれての協議がありました。

本研究「自分の目標に向かって主体的に学ぶ子どもをめざして～自立を促す指導・支援の在り方～」は4年次研究の1年目でしたが、それぞれの発表を聞いて3学期からの指導・支援に活かすことのできる大会になりました。

各分科会の様子は以下のとおりです。



第1分科会	校長班	助言者	岩手県教育委員会事務局 学校教育室 特別支援教育課長	最上 一郎 先生
		発表者	花巻市立若葉小学校 校長	本館 憲和 先生

【発表主題】 自分の目標に向かって主体的に学ぶ子どもをめざして
～インクルーシブ教育システムの構築を柱に～

【助言】・理念や考え方を入れた目標、支援体制システムを大切にしたい。何を大事にしている学校なのか、本質的な視点が教員一人一人に浸透しているかを考えていきたい。

- ・インクルーシブ教育システムについて、進めていくための留意点として、「共生社会」になるための環境整備が必要。（生きる力を身につけていけるかどうかを最も大切）
 - ・専門性の向上。できる範囲でクリエイティブにできる専門性を高めることが大切。
 - ・支援計画、個別の指導計画、引き継ぎシートを活用すること。
 - ・多様なニーズへの対応。（どの子にも達成感や充実感をもてる時間になっているか。確かな学びになっているか。）
 - ・新プランの方向性。
- 3つのキーワード「つなぐ」「いかす」「ささえる」がある。



第2分科会	難聴班	助言者	岩手県立盛岡聴覚支援学校	教諭	一條 遥 先生
		発表者	盛岡市立向中野小学校	教諭	福島 恵美子 先生

【発表主題】 主体的に学ぶ児童の育成 ～自立活動の書く活動・障がい理解の学習を通して～

- 【助言等】
- ・聴覚障がいにおける自立活動の目標や内容、指導内容例の確認。実態把握から、どういう支援が必要かを考えたい。
 - ・自己理解、障がい認識について（当事者のエピソードから紹介）



あなたはあなたのままでいい
 他者に支援を求めめるために必要なこと
 当事者同士で話す経験も必要である。
 セルフアドボカシー。「医療・健康面」「補聴器機の活用」
 「教育的配慮・コミュニケーションモード」指導の参考
 にしてほしい。

- ・支援学校の実際の指導例（小学部・中学部・高等部・寄宿舎）、参考資料、アプリの紹介がありました。

第3分科会	LD班	助言者	岩手県立総合教育センター 研修指導主事	藤井 未央 先生
		発表者	奥州市立岩谷堂小学校 釜石市立釜石中学校	教諭 柴山 佑美 先生 教諭 大澤 朋子 先生

【発表主題】 自分の目標に向かって主体的に学ぶ子どもをめざして
 ～自立を促す指導・支援の在り方～

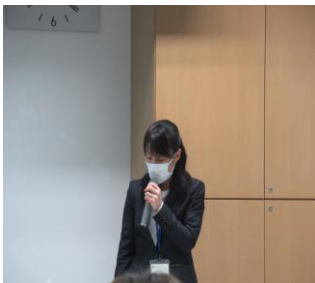
【小学校】授業づくりと家庭との連携

【中学校】自立活動のうちLD等通級に関する指導の早見表の工夫

【助言等】

<小学校>

- ・「こうなりたい」という思いを維持させるための手立て。
 子ども：自分が認められている。受け入れられていると思う。
 自分で決めてやってみたらできた！という経験。
 指導者：一人一人の居場所をつくる。個に応じた目標設定をする。方法を複数示す。
 実践から…自分のことを知ってくれていると感じられる学級経営
 をしている。実態から支援の手立てを考えている。
- ・保護者との連携で大切なこと



子ども：学校も家庭も安心安全の場所である。
 先生、保護者、自分の三角関係がある。
 指導者：「一緒に取り組んでいきましょう」のスタンス
 をもつ。
 情報発信を続け、子どもを中心にした関係をつくる。
 実践から…



「伴走者として」がよい言葉である。情報発信には視覚化する等の工夫が
 できる。
 連絡カードを様式化している。
 保護者からの言葉が子どもに伝わるとよい。
 ファイル類を増やさない方がよい。

<中学校>

- ・指導の早見表の注意事項として、重複する部分がある。根拠は、学習指導要領である。
- ・自立活動の評価は、教科の評価ではなく、自立活動の評価をする。
- ・指導の内容は、あくまでも例である。主語は教師であり、「～させる」にならないようにする。
- ・個別の指導計画を活用すると、指導の見通しになる。
- ・早見表を担任や保護者連携において活用すると、通級指導の共通理解につながる。

第4分科会	盛岡	助言者	花巻市立花巻小学校	教諭	吉池 稚重子 先生
		発表者	盛岡市立青山小学校	教諭	柴田 正徳 先生

【発表主題】 吃音児童の自立に向けた指導について

【助言等】

- ・吃音児の指導，支援の考え方では，吃音は完全に消失するものではないから，方向性として症状・周囲の反応・本人の反応の課題を小さくしていく。
- ・環境調整に子どもが関わっていることが良い。指導の前に，何のために「おいかげっこ読み」をするのか等子どもがわかって指導にあたることが大切。



- ・合理的配慮について…将来を見通した配慮を考える。
中学校：英語でのスピーチ配分が大きくなってきている。
高校：人間関係の広がりつつながりの濃淡がある。
高校以降に合理的配慮を求める際に，小中学校時にどんな配慮があったかという実績が問われる。

- ・進級・進学先への引き継ぎが重要。関わる人全員で情報共有したい。
- ・誰が合理的配慮を求めるのか。セルフアドボカシーを身につけさせたい。

第5分科会	上閉伊 気仙	助言者	八幡平市立大更小学校	指導教諭	牟岐 茂里雄 先生
		発表者	遠野市立遠野小学校	教諭	菊池 国浩 先生

【発表主題】 諸検査からのアセスメントの在り方について

【助言等】

- ・アセスメントの取り方，検査を受けるまで大変。子どもの様子をよく観察し，その子に合った対応をしていかなければならない。担任外が見てあげなければならないこともある。困り感にどう対応していかなければならないか考えていく必要がある。
- ・集団の中での生活や学習が困難な子どもたちへは，担任や保護者と連携しながら支援していくことが大切。まずは実態を知ること。様々な検査を活用する必要も出てくる。多面的な見立てをしていくことが大切。（心理検査の結果にとらわれない）
- ・見立てについて。
学校として，誰が，どこで，どの体制をつくり行っていくのか。



どんな関わり方をしてどんな支援をしていけばよいか。自立にどのようにもっていくのか。家庭ではどうしていくのか。 **見立て → 計画 → 連携**

- ・発表内容から使えるものがいろいろあったので，活用していくことが大切になる。

幼児班	実践交流
-----	------

釜石・大槌の幼児教室での指導の様子について（画像・動画での紹介）

釜石市教育委員会 課付補佐 小澤 幸恵 先生
 講師 祝田 由美子 先生
 大槌町教育委員会 指導員 東 敦子 先生



・大槌町の訪問指導は、小学校へのつながりを大切にしたいという指導員の思いを教育委員会が受け止めてくれて実現した。

【感想】・大槌町訪問指導について、成果と課題を知りたい。

- ・あいうえカード 5ヶ年計画すばらしい。
- ・釜石市の指導の流れや教材について、とてもわかりやすくまとめていただいた。
- ・発達障がいのある子とことばの障がいとがリンクしている場合もある。
- ・それぞれの教室での交流が図られていた。

講演

演題 「あなたはあなたのままでいい あなたはひとりではない あなたには力がある」

講師 日本吃音臨床研究会 会長 伊藤 伸二 氏



伊藤先生は、講演に先立ち事前資料を用意してくださいました。

- ① 吃音と上手につきあうために知っておきたい吃音の基礎知識
- ② 吃音を生きる伊藤伸二の人生
- ③ 小児科医師会講演資料 どもる子どものための小さな援助論
- ④ 言語訓練に代わる日本語のレッスン
- ⑤ 初恋の人 『新・吃音者宣言』 <当日の資料>

講演では、リモートではなく「実際に顔をあわせて自分の言葉で話したい」ということで、先生の話に聞き入りました。また、吃音児をもつ保護者の参加もあり、とてもわかりやすく良かったという感想も寄せられました。

○ストレス時代を生きる子ども

ムーミンの三間…「空間」「時間」「仲間」ムーミン谷にはこの3つがある。

伊藤先生のムーミン谷は、言友会であった。子どもにとってのムーミン谷は通級指導教室でありたい。

○共同体感覚に必要なこと（アドラー心理学）

自己肯定（私は私のままでいい）

他者信頼（人々は信頼できる）

他者貢献（私は人の役に立つ力がある）

○健康生成論

SOC（ストレス対処能力）を構成する3つの要素

- ・把握可能感（分かる）
- ・処理可能感（できる）
- ・有意味感（意味がある）

○吃音親子サマーキャンプ（女川町から3年連続で参加した家族の紹介）

- ・学校に行けない自分の苦しさを語り合う中で、自分のよさに気付く。
- ・交流するうちに、みんな前向きにがんばっていることや吃音は自分のにとって大事なものと気付く。
- ・2学期から、学校に通い始める。

伊藤 伸二先生、ありがとうございました。

**吃音は、自然治癒の力を信じればよい。
 学校で失敗してよい。
 立ち直ることを学ぶ。
 対処する力をつける。**

こんにちは 花北地区研究会です

★ 今年度の花北地区の研究会は、19施設36人の担当者がいます。きこえの教室は小7校・中3校、ことばの教室は小9校15教室、幼児ことばの教室は4施設（教育委員会内・小学校内）6教室、LD等通級指導教室は小2校・中3校です。

★ 今年度も、3回の研修会を実施しました。研修会の様子を紹介します。

- ・ 第1回 6月 ①顔合わせと研究主題や内容、年間計画について
②講話「発達障がいと思われる児童生徒への指導・支援について」

陸前高田市立高田小学校 教諭 佐藤 司 先生



↑講話資料↓

- ・ 個別の教育支援計画フェースシート
- ・ 「発達障がいと思われる児童生徒への指導・支援について」
- ・ 令和5年度〇〇市教育支援の進め方
- ・ 手続き及び指導に関する具体

今までの取組を例に、特別な指導が必要な児童・生徒への対応等の講演をしていただきました。就学前の早期から医療・福祉・教育の連携が大切であること、指導に至るまでの進め方、具体的支援や評価、継続した指導のために必要なこと、現在の国や県の動向など、貴重なお話と資料は大変勉強になり、示唆に富むものでした。

- ・ 第2回 9月 各部毎に学習シート等か個別の指導計画を持ち寄って事例交流→報告
- ・ 第3回 11月 北上地区のことば・花巻地区のことば・LD等研究班・幼児班が開催
→各部会に分かれて研修

★ 花巻市の巡回指導の紹介

花巻地区のことばの教室は、幼児ことばの教室と小学校でのことばの教室があります。小学校の教室担当は、巡回指導員（花巻市の会計年度任用職員）と教室担当者（県の職員）とが協力しながら指導をしています。指導形態は、自校通級・他校通級・巡回指導をしている先生、自校通級・他校通級の指導をしている先生、全て巡回指導をする先生と様々です。幼児ことばの教室担当は、花巻市教育委員会の所属で、各園への巡回指導と幼児教室での指導を行っています。

花巻市独自の巡回指導のシステムがあるため、幼稚園・保育園等、及び小学校のたくさんの幼児・児童が他校通級等をせずに、ことばの指導を受けられます。そのため、保護者が仕事の休みを取らずに指導を受けられるメリットがあり、保護者の方々から喜ばれています。また、巡回指導の先生方がベテランなので、指導はもちろん、研究会での実践発表・発言・意見等も、貴重なものになっています。

なお、花巻地区の親の会では、会長含め数名が毎年教育長訪問を行っています。親の会からの陳情内容の一つとして、巡回指導員による指導の継続希望を出しています。